

営業が使えるウォールスタット

活用事例を紹介、計算時間を短縮

耐震性能見える化協会



中川 理事長

耐震性能見える化協会（中川貴文理事長）は23日、オンラインで「ウォールスタット活用事例セミナー」を開催した。中川理事長はウォールスタットの計算時間を大幅に短縮できるウォールスタットver5を開発中で、これまでは構造設計者やプレカッドCADオペレーターなど一部の技術者が使用してきたが、営業や意匠設計者が気軽に使えるものにしていく考えを示した。

セミナーでは、鹿児島 鹿屋 島の大手ビルダー七呂建設の七呂恵介社長は、昨年度着工は292棟、2020年9月からウォールスタットの標準採用を決め、施主にアピールしている

セミナーでは、鹿児島 鹿屋 島の大手ビルダー七呂建設の七呂恵介社長は、昨年度着工は292棟、2020年9月からウォールスタットの標準採用を決め、施主にアピールしている

構造設計に関する取り組み状況に応じたサポートし、許容応力度計算を行う耐震等級3に取組んでいるところは、プラン段階で構造に配慮しているのでスムーズという。

断、地盤の影響も考慮した時刻応答解析を実施できる「地震あんしんシステム」を国土交通省の補助事業で開発、会員向けに提供していることを説明した。スマートフォンによる地震計を住宅に設置することでウォールスタットでのシミュレーション結果を検証できることも紹介した。

中川理事長は、これまでウォールスタットは計算にパソコンで10〜15分を要したが、これを解消する開発をしており、営業が施主に説明しながらシミュレーションができるようなものにしていく方針を示した。

愛知県のプレカット会社シンホリの北村彰近副社長は、工務店サポートのためウォールスタットを使った倒壊シミュレーションを実施している。工務店の

橋爪智幸氏（在住ビジネス）は、在住ビジネスではウォールスタットを活用したメーカー販促、工務店の販促、設計サポートを行っており、工務店の設計フローにウォールスタットを組み込んで3回のシミュレーションを行っていることを報告。

鈴木強工務店フォーラム理事は、ウォールスタットのプッシュユーパー機能を使い損傷限界などを客観的に判